✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

✧　「フィリピン国気象観測・予報・警報能力向上プロジェクト」において当センターの技術支援により、気温ガイダンスの業務利用が実現しました

振興部では、2014 年から JICA（国際協力機構）の委託事業として「フィリピン国気象観測・予報・警報能力向上プロジェクト」を推進しています。このプロジェクトでは、台風災害などの自然災害を頻繁に被っているフィリピン国の気象業務を改善するため、5 つの分野（気象観測能力、気象データ解析・予報能力、警報発表基準の精緻化、国民への情報伝達、気象防災に関する啓発活動）で、フィリピン気象天文庁（PAGASA）に対して、多面的な技術支援活動を行ってきました。

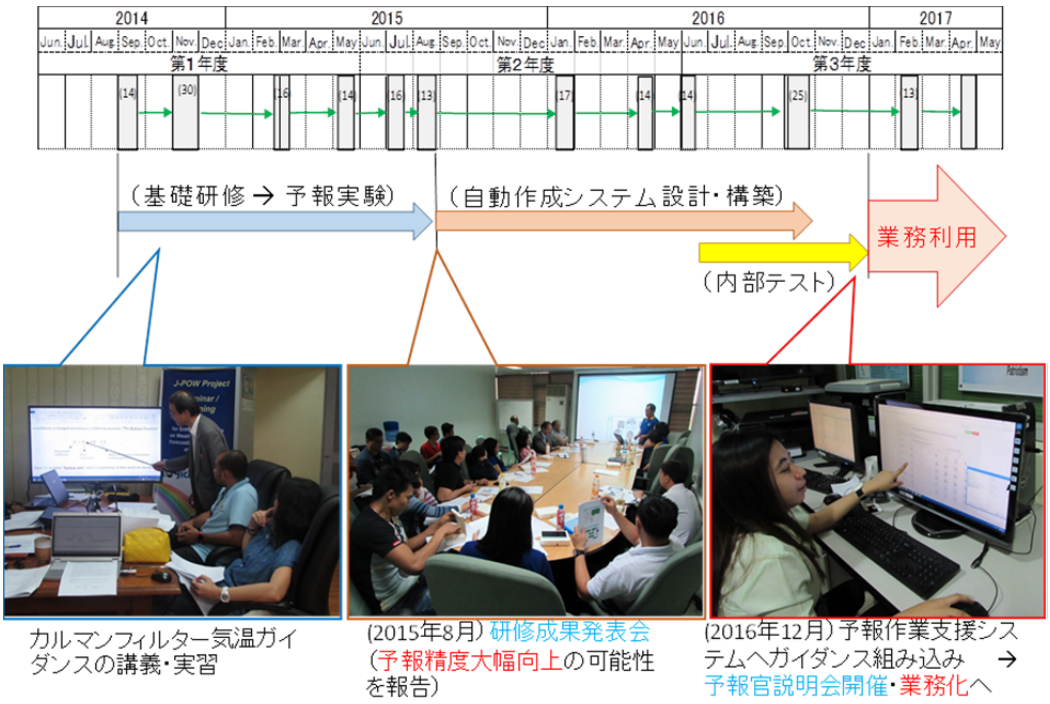
気象データ解析・予報能力向上の課題の一つとして予報ガイダンスの作成技術の研修が取り組まれてきました。日本などの先進国では、高精度の予報を国民に効率的に発表する上で、予報作業を支援する予報ガイダンス（数値予報結果を統計処理した客観予測資料）が、重要な役割を果たしています。しかし、フィリピンでは主に手作業による予報作業が行われてきていたところから、日本からの技術指導で、この予報ガイダンスの作成技術を習得し、これを活用することで PAGASA の予報業務の近代化と提供情報の品質向上を図ろうとしたものです。

この課題では、当センターから派遣された専門家のもとに PAGASA の技術職員 5 名からなる技術作業グループが組織され、基礎的な技術手法に関する講義・実習から、業務用のガイダンス自動作成システムの構築まで、系統的な研修が取り組まれてきました（図 1 の研修の様子をご覧ください）。

図１．予報ガイダンス作成実習の様子

そして、この研修の成果である気温ガイダンス作成システムの完成を受けて、2016 年 12 月 7 日に予報官向けの説明会が開催され、その後、同ガイダンスが日々の予報に活用されるようになりました（図２．経過図をご覧ください）。

図２．予報ガイダンスの基礎研修から業務利用達成までの経過



今回の技術支援により、フィリピンでの予報業務の改善を達成できたとともに、それを担う技術スタッフの人材育成にも大きな貢献ができました。振興部では、今後も発展途上国の気象業務改善のための技術支援活動に積極的に取り組む計画です。

（振興部）